

岩手県高校バレーボール競技の地域差について (I)

——身長と競技成績から——

小笠原義文・*赤石 忠男・**千葉 正・***千葉 智行

はじめに

岩手県内高校バレーボール競技大会（総合体育大会・県民体育大会・新人大会）は登録チーム数が男女合計 150 チーム以上にも達している。本来であれば各大会とも全チームによる県大会が最善であるが、ここ十数年地区別予選会（各ブロックの参加チームに応じて、9 ブロックから本大会に出場）を経て、県大会へ出場しているのが現状である。平成 2 年度新人大会（1～2 年生でチーム構成）は全ての登録チームの参加開催となり（31 年振り）その結果、競技成績の状況が明らかになった。

バレーボールチームの競技力を捉える方法として、従来から体格・体力面を比較して各チーム及び個人の成績を検討することは過去にも研究報告^{1) 2) 3) 4)}がなされているが、体格の 1 つである身長計測と競技成績を競技力とみなして、地域差の実態を検討把握することは、単純であるがゆえにあまり例がなかった。

そこで今後の指導の資料とするために身長と競技成績の実態把握から、岩手県内における地域差について、ピュアケースとして報告する。

○ チーム数

性別 \ 地区	男 子	女 子	計
盛 岡	12	17	29
花 巻	8	9	17
北上・水沢	14	15	29
県 南	10	10	20
気 仙	4	4	8
釜 石	6	4	10
宮 古	6	9	15
久 慈	4	7	11
福 岡	6	7	13
計	70	82	152

* 岩手県立盛岡短期大学 ** 麻生東北短期大学 *** 盛岡大学

調査対象及び期日

岩手県内高校男女新人バレーボール大会出場全チームを対象とした。

男子 70 チーム, 女子 82 チーム

期日 平成2年11月17日(土)～19日(月)

＜計算方法＞

1. 競技力の得点評価について(男女チーム評価表)

男	女	得点	男	女	得点
一回戦敗退		1	五回戦(対シード)敗退		6
一回戦(対シード)敗退		2	ベストエイト		7
二回戦進出		3	3位		8
三回戦進出		4	2位		9
四回戦進出		5	1位		10

2. 身長得点評価について(男女チーム評価表)

男子の身長 (cm)	得点	女子の身長 (cm)
190 以上	10	180 以上
187 ~ 189	9	177 ~ 179
184 ~ 186	8	174 ~ 176
181 ~ 183	7	171 ~ 173
178 ~ 180	6	168 ~ 170
175 ~ 177	5	165 ~ 167
172 ~ 174	4	162 ~ 164
169 ~ 171	3	159 ~ 161
166 ~ 168	2	156 ~ 158
165 以下	1	155 以下

* 男子の身長 190.0 cm 以上を 10 得点とした
 身長 165.0 cm 以下を 1 得点とした
 級間 2.0 cm とし 10 段階評価とした

* 女子の身長 180.0 cm 以上を 10 得点とした
 身長 155.0 cm 以下を 1 得点とした
 級間は 2.0 cm とし 10 段階評価とした

結果と考察

1. 各地区内のチーム事情

(1) 男子チーム

1) 盛岡地区の現状

特定の学校に中学の有望選手が集まっているのが現状である。競技力と身長はトップである。これは中学時や小学時にバレーボールを経験した者が多く含まれていることが、大きく競技力で他地区に勝っているのが現状であり、高校に入学してからの競技力ではないようである。

このことは、高校総合体育大会まで主力であった3年生が抜けて、2カ月後の試合においてチーム力を発揮することは、不可能に近く、個人の経験のある・なしが競技力に関与しているものと思われる。

特にゲームの進展を観ると、単調なゲーム展開が多く、チームプレーは皆無に近く、個人技の優劣が競技成績に結びついているのが現状のように見受けられた。

①盛岡地区の得点評価

()内：高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
A a	5 (5)	8	A g	6 (6)	8
A b	6 (7)	7	A h	5 (5)	4
A c	5 (7)	9	A i	6 (7)	10
A d	4 (6)	6	A j	3 (4)	1
A e	4 (6)	7	A k	4 (5)	2
A f	6 (6)	5	A l	5 (5)	5

身長4.91(5.75) 競技力6.00

2) 花巻地区の現状

地区周辺の中学時経験した選手が分散して、各学校で中心選手としてチームを構成しており、チームに纏まりがあるが、傑出した競技力のある選手がいないのが特徴である。

②花巻地区の得点評価

()内：高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
B a	5 (6)	6	B e	5 (6)	4
B b	4 (6)	2	B f	4 (5)	2
B c	3 (6)	4	B g	4 (5)	2
B d	5 (7)	6	B h	2 (3)	1

身長4.00(5.50) 競技力3.38

3) 水沢・北上地区の現状

平均的な競技力と身長のある中学時経験の選手が数校に集まっているが、地域内での各高校の競技力差が大きいようである。

特に、水沢地域圏が効果的なチーム養成をすれば、今後かなりの水準まで競技力が向上するものと思われる。

③水沢・北上地区の得点評価

()内: 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
C a	5 (5)	4	C h	4 (5)	4
C b	5 (5)	2	C i	5 (6)	1
C c	4 (5)	3	C j	4 (5)	4
C d	4 (5)	7	C k	5 (6)	6
C e	3 (4)	2	C l	4 (5)	2
C f	3 (4)	2	C m	4 (5)	2
C g	3 (4)	4	C n	3 (4)	4

身長4.00(4.86) 競技力3.27

4) 県南地区の現状

特定の学校に中学時経験した選手が集まっているのが特徴であり、県内は勿論、隣県からも毎年、中学有望選手が入学しており、ここも地域内での学校間差の競技力が大きいいため、地域内での交流試合などではチームの競技力向上の多くは期待できないようである。

今後の課題は、新人の発掘が大きく競技力を左右すると思われるが、同時に現有チームの特徴を生かしたチームづくりが肝要である。

④県南地区の得点評価

()内: 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
D a	5 (6)	6	D f	4 (5)	1
D b	3 (4)	3	D g	4 (5)	1
D c	6 (6)	4	D h	4 (4)	6
D d	4 (6)	2	D i	3 (4)	2
D e	3 (5)	3	D j	3 (5)	2

身長3.90(5.00) 競技力3.00

5) 気仙地区の現状

この地区は、他の運動種目に多くの中学生が流れ、バレーボール競技をする男子の競技人口が薄いと、進学しても各高校の指導者数の不足が中学時の経験者が他の運動種目に分散したりして、競技力を低レベルに押しやっているようにみうけられる。

これらの中学経験者をいかに継続させながら、バレーボール競技に定着させるかが今後

の大きな課題であり、数年間低迷を強いられている大きな原因であろう。往年の実績まで立ち戻れる鍵は、指導者の熱意に関する。

⑤気仙地区の得点評価

() 内: 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
E a	4 (4)	2	E c	4 (4)	2
E b	2 (4)	1	E d	5 (6)	3

身長3.75(4.50) 競技力2.00

6) 釜石地区の現状

以前は、優勝等の実績がある地域であるが、ここ数年は地盤沈下が著しく、根本的な指導体系の見直しが必要な地域である。

まず、解決の糸口は指導陣が地域の実態を把握し、さらに情報交換をしながら、小・中学からの地域ぐるみの一貫指導を心掛け、後述の要因を速やかに打破すべき努力が必要と思われる。

人口減少が著しく、直接的に教育現場の児童・生徒の減少流出が教育活動に大きく支障を被っている地域であり、地域の活性化が競技力向上の大きな要因であろう。

⑥釜石地区の得点評価

() 内: 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
F a	4 (4)	4	F d	5 (6)	2
F b	3 (3)	2	F e	4 (6)	4
F c	4 (4)	2	F f	4 (4)	4

身長4.00(4.50) 競技力3.00

7) 宮古地区の現状

最近、徐々に競技力が向上してきているが、中学時の競技人口が少ないのと近隣との交流試合の機会が少ないことが競技力を大きく遅滞させていると思われる。今後飛躍するために大きな経済的な課題を克服するため、学校及び父母の理解と地域社会の協力を得ながら、他地区との交流が大きく競技力を向上させるものと思われる。

⑦宮古地区の得点評価

() 内: 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
G a	3 (4)	2	G d	4 (6)	5
G b	5 (6)	4	G e	4 (6)	2
G c	3 (3)	2	G f	3 (5)	3

身長3.67(4.83) 競技力3.00

8) 久慈地区の現状

中学のレベルは平均的な競技力にもかかわらず、他県への中学有望選手の進学や高校進学後の競技の継続が少なく、今一つ高校の戦力強化にならない低迷の地区である。

中学時の経験者を高校まで一貫した指導体系を組むため、地域協会の働きかけが大切であるのと、選手の家族との連携を密にしながら中学校の指導者と高等学校の指導者の協力関係を進めることが先決であり、このことが解決されることにより、競技力の飛躍が期待される地域であると同時に有望選手の他県への流出に歯止めが出来るものと思われる。

⑧久慈地区の得点評価

()内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
H a	4 (5)	2	H c	5 (5)	2
H b	3 (4)	2	H d	3 (4)	3

身長3.75(4.50) 競技力2.25

9) 福岡地区の現状

中学時の競技力も普通であるが、この地区も中学有望選手が他県への流出がある地区であり、高校の指導者がいつも苦慮している地域である。

現状は中学時経験した有望選手が高校に進学し、他県との交流試合で選手強化しながら、県内ではいつも上位の成績を維持している。今後の課題は、選手の流出をなくし、地元高校に定着させることによって、大きく競技力が向上するものと思われる。

⑨福岡地区の得点評価

()内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
I a	4 (5)	2	I d	4 (6)	7
I b	4 (5)	4	I e	4 (4)	2
I c	4 (4)	4	I f	3 (4)	2

身長3.83(4.67) 競技力3.50

(2) 女子チーム

1) 盛岡地区の現状

県内の中学時のトップクラスの有望選手が2~3校に集り、チーム構成をして、上位を形勢しているが、寄せ集めのため新人大会では今一つ力が出ないようである。

また、下位校にあるチームの戦力は、県内男子の下位と同じく中学の競技経験者の度合いで成績が左右しているのが現状である。

身長も上位・下位とも他地区の選手よりも恵まれ、好指導により今後かなりの成績が期待できる地域である。

①盛岡地区の得点評価

() 内；高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
J a	4 (5)	6	J j	5 (5)	5
J b	4 (4)	4	J k	3 (4)	2
J c	2 (3)	1	J l	4 (4)	5
J d	4 (5)	6	J m	4 (5)	3
J e	2 (3)	1	J n	7 (7)	8
J f	3 (5)	2	J o	3 (3)	2
J g	5 (5)	1	J p	5 (5)	7
J h	3 (5)	4	J q	3 (3)	1
J i	2 (3)	3			

身長3.70(4.37) 競技力3.59

2) 花巻地区の現状

特定の学校に中学時の有望選手が集まってチームを構成しているため、各高校のレベル差が大きく上位校は地区内での強化練習は無意味であるが、地域的に県の中央に位置している関係上、他地区や隣県との交流が容易であることから、今後の指導の計画でかなり成果が期待できる地域である。

②花巻地区の得点評価

() 内；高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
K a	4 (5)	2	K f	4 (4)	2
K b	5 (6)	9	K g	4 (4)	6
K c	3 (4)	2	K h	3 (5)	2
K d	4 (5)	2	K i	2 (3)	1
K e	3 (4)	5			

身長 3.56 (4.44) 競技力 3.44

3) 水沢・北上地区の現状

各学校に中学時有望視された選手が分散して入学しているため、平均的な競技力が各チームにあり、学校間差がないが今一つ抜きんでた競技力のあるチームが見当たらない。

ただ、花巻地区と同じく交通の便が良いので隣県や他地域との交流による選手養成が今後の課題であり、指導者の効果的な練習体系の確立と奮起が望まれる地域である。

4) 県南地区の現状

特定の学校に中学時の有望経験者が集中している傾向にあり、競技力の学校間差が大きいため、地域性を生かした隣県との強化交流が望まれる地区である。また、ほとんどの中学経験者は地元高校に進学し、一貫したライン連携がうまくとれている地域であり、今後

に期待がもたれる。

身長においても特別高身長の選手がいないが比較的バランスのよい選手層で上位チームが構成されている。

③水沢・北上の得点評価

() 内; 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
L a	4 (5)	7	L i	4 (5)	3
L b	2 (2)	2	L j	4 (5)	4
L c	2 (2)	1	L k	4 (4)	1
L d	3 (4)	5	L l	3 (4)	6
L e	3 (3)	2	L m	2 (4)	6
L f	3 (4)	2	L n	3 (3)	4
L g	4 (4)	2	L o	2 (4)	1
L h	3 (3)	6			

身長3.07(3.73) 競技力3.46

④県南地区の得点評価

() 内; 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
M a	3 (4)	1	M f	5 (5)	6
M b	3 (4)	1	M g	4 (5)	4
M c	4 (4)	8	M h	3 (4)	1
M d	2 (3)	7	M i	5 (5)	3
M e	4 (4)	2	M j	4 (4)	3

身長3.70(4.20) 競技力3.60

5) 気仙地区の現状

この地区は、小学生から中学生まで地域の指導者が一貫した強化育成に力が注がれており、中学時には、かなり完成された選手が育成されている。

特に、基本的な技術と戦法などは中学時に熟知している選手が多く、高校へも特定の学校のチームに進学するため、チーム構成は纏まりがある。

他地区のチームより一歩抜きんできたチーム構成ができ、新人戦等では競技成績が毎年上位である。

⑤気仙地区の得点評価

() 内; 高順位 6 人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
N a	4 (5)	10	N c	4 (4)	4
N b	4 (4)	4	N d	4 (5)	7

身長4.00(4.50) 競技力6.25

ただし、高身長の中学期有望選手は隣県の高校に流出するため、次の大会までの補強に指導者が苦慮しており、競技成績も上がらず一抹の不安を抱えているようである。

6) 釜石地区の現状

高校入学以前の競技経験者の選手層が薄く入学後から構成された選手集団のチームが多く、男子で述べたような環境下にあり、競技力の地盤沈下の著しい地域である。

地域内に強化拠点校を育成し、他地区との交流による強化が必要と思われる。

特に隣接の気仙地区との交流が競技力をアップさせる場であると思う。

⑥釜石地区の得点評価

()内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
O a	3 (4)	3	O c	2 (4)	1
O b	3 (4)	2	O d	4 (4)	3

身長3.00(4.00) 競技力2.25

7) 宮古地区の状況

中学の有望選手が他地区に進学するため、高校での強化が必要な地区であり、チームの構成も経験者層が薄く成績も今一つ上がらずにいる。また、対外交流試合なども経済的な負担と交通が遠隔地なため、選手及び指導者の献身的な指導が競技力向上の大きな支えであり、相対的に下位グループに甘んじている。

⑦宮古地区の得点評価

()内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
P a	3 (4)	4	P f	4 (4)	1
P b	4 (5)	3	P g	3 (4)	3
P c	2 (3)	1	P h	3 (3)	2
P d	2 (4)	4	P i	4 (4)	2
P e	2 (3)	3			

身長3.00(3.78) 競技力2.56

8) 久慈地区の現状

中学時の経験者が分散して進学するため、中心的な強力チームが無く、地域内での交流

⑧久慈地区の得点評価

()内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
Q a	3 (4)	3	Q e	3 (3)	2
Q b	3 (4)	4	Q f	3 (4)	5
Q c	4 (5)	3	Q g	2 (3)	3
Q d	3 (4)	2			

身長3.00(4.00) 競技力3.14

試合等も少なく、試合経験が浅く実力が出し切れずに終わっているのが、ここ数年間の傾向である。特に他県との交流に力をいれて指導計画を見直すことが今後の成績を左右するものと思われる。

9) 福岡地区の現状

中学時の経験者が比較的まとまって同一高校に集まる傾向にある地区なので、他地区との交流による試合などの経験を多くさせることが競技成績に直結するものと思われる。地域的にも他県の有力チーム高校に近く、選手の発掘も大切だが、他県との交流試合のパイプを太くすべきと思われる。

⑨福岡地区の得点評価

() 内; 高順位6人の平均得点

チーム名	身長得点	競技力得点	チーム名	身長得点	競技力得点
R a	5 (6)	1	R e	3 (3)	1
R b	3 (4)	6	R f	2 (2)	2
R c	3 (4)	4	R g	3 (4)	3
R d	3 (4)	4	R h	2 (3)	2

身長 3.00 (3.71) 競技力 2.71

2. 地区別身長と競技力

1) 盛岡地区

男子は、総体的に県内では身長・競技力ともトップにあるが、高身長者と低身長者でチームの主力メンバーを構成している。

競技力も中学時の経験豊富な選手層で固めたチームが競技成績も良く、これからの強化で、他県勢に肉薄できる有望な選手集団であると思われる。

女子は、2～3の高身長者のチーム構成もあるが、全体的には平均的な選手でチーム構成している。高身長のチームも寄せ集めのチーム構成であり、現段階では競技成績も普通である。比較的高身長を集めてチーム構成をしているチームには、中学時に経験した選手が多いので、今後の指導により、かなりの競技成績が上がるものと思われる。

2) 花巻地区

男子の身長は、盛岡地区と同レベルにあるが、各高校のチーム構成が中学時の有望経験者が少ないため、競技成績で盛岡地区に劣り、今後かなりの指導時間が必要であり、同時に交流試合の良否が競技力に影響するものと思われる。

女子は、一部学校に有望な中学時の選手が集まっており、身長・競技成績も良く、地区交流と他県での交流がこの地区のレベルアップを大きく左右すると思われる。県内の女子強化の有力拠点地区である。

3) 水沢・北上地区

男子のチーム構成は、中学時の経験者が分散して各高校の主力になっているため、身長・競技力とも県内では中位グループである。

今後、上位を目指すためには他県への強化交流と選手の意識改革が必要と思われる。

女子は、比較的同一チームに集まっているが中学時の競技経験が浅く、有望選手が他地区に行くため、選手の意識に今一つ覇気がなく競技力が低迷している。高身長・競技経験の豊富なチームに迫り着くためには他地区との頻繁な交流による練習が必要と思われる。

4) 県南地区

経験豊富な選手が各チームの主力になっている男子ではあるが、寄せ集めなためチーム構成がまま成らず競技成績も低迷している。積極的な交流試合が必要であろう。また、地域内や隣県から大型中学有望選手の確保などが今後の「鍵」と思われる。

女子は、低身長者のチーム構成であるが中学時の経験からうまく高校の競技経験をプラスしたものが一部チームにあり、競技成績も上がっているが、大型チームに切り替えることが今後の課題と思われる。

5) 気仙地区

男子は、身長・競技力とも低レベルにあり、中学時の有望選手を出来るだけ同一校に集め拠点強化校を育成するか、高校入学前の中学生強化に力を注ぐことが賢明と思われる。女子は、中学時の県内トップの選手が同一校に集まるので、競技成績はトップを維持している。しかし、低身長者でチームが構成されているため、県外のチームに対等になるためには、高身長の強力チームとの練習試合での経験が競技力向上の鍵を握っているものと思われる。

6) 釜石地区

男女とも低身長・低競技力に低迷している。強化拠点づくりから始めることが必要である。

特に、地域協会の全面的な強力と高校サイドからの働きかけが必要と思われる。

7) 宮古地区

男子は、比較的中学時の経験者が同一校に集まったので競技成績も向上したチームもあるが、総体的に選手層が薄く、強化拠点校不在の地区であることから、常に上位を狙うためには、中学時優秀な選手の他地区への流出に歯止めをかけるよう努力することが肝要と思われる。

女子は、低身長者・競技力が低レベルにある。中学生の指導者との連携強化が必要である。

8) 久慈地区

男女とも身長及び競技成績において低レベルにある。中学時に経験した有望選手も他地

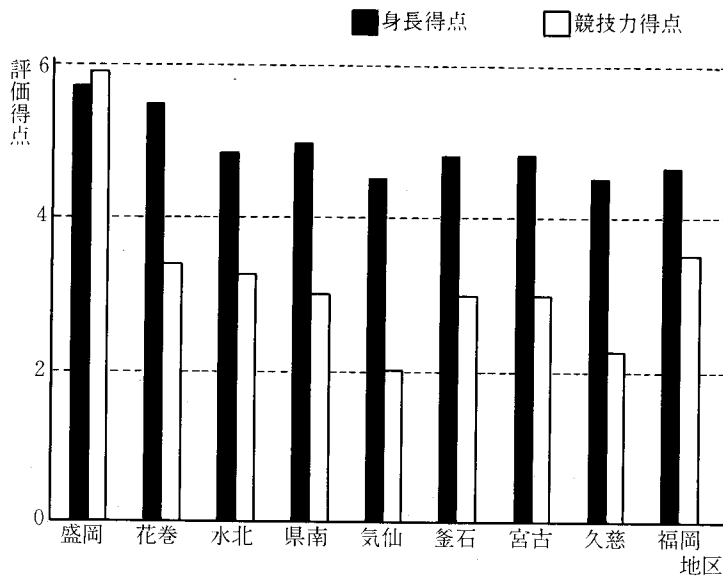
区に進学したりして、核となるチームも無く、地区のリーダー・チーム不足で強化練習等に苦慮している。他地区との交流試合が強化に最適と思われる。

9) 福岡地区

男子は一部の高校チームを除いて中学時有望であった選手がいないため、チームの核となる選手が不在でチーム構成が身長・競技力とも低いレベルにある。中学時有望であった選手が他県に流出しているのも、この地区のレベルを低くさせている大きな要因であろう。

女子は、全体的に身長・競技成績も低いのは、中学時の有望選手が、高校に入学してから競技を続けないことが多いようである。高校に入学してから新人戦までにチーム作りとなると期間が短かく容易なことではないので、結果的には競技成績は妥当なところであり、今後も大きなハンデを克服するため、数多くの試合を経験させ総合的に練習することが強化の最短コースと思われる。

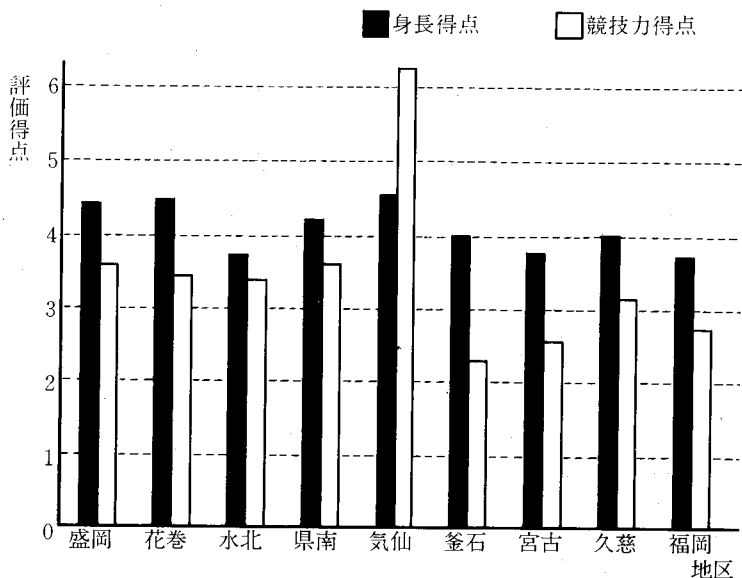
3. 競技力群別身長比較



図一A 地区別男子の身長・競技力比較

競技成績を上位群・中位群・下位群に分けて身長をみたところ、男女とも競技成績が良い集団ほど高いが、個々のチームを見ると身長が高いチームが必ずしも上位の成績ではない。成績上位群は中学時に有望であった選手達でチーム構成したところであり、身長が高ければ競技成績が良いのではなく、中学時の競技力が成績を左右していることが推察される。

新人戦以降の戦力は、高身長の手を有しているチームに競技力向上の期待があるが、これも指導者の綿密な練習計画と実践に負うところが大きいので予断は許されないのが本



図一B 地区別女子の身長・競技力比較

県の高校の現状と思われる。

現行のルールを鑑みて、身長のある選手をもつチームほどブロックとスパイクには有利となり作戦上でも優位にたつことが伺える。

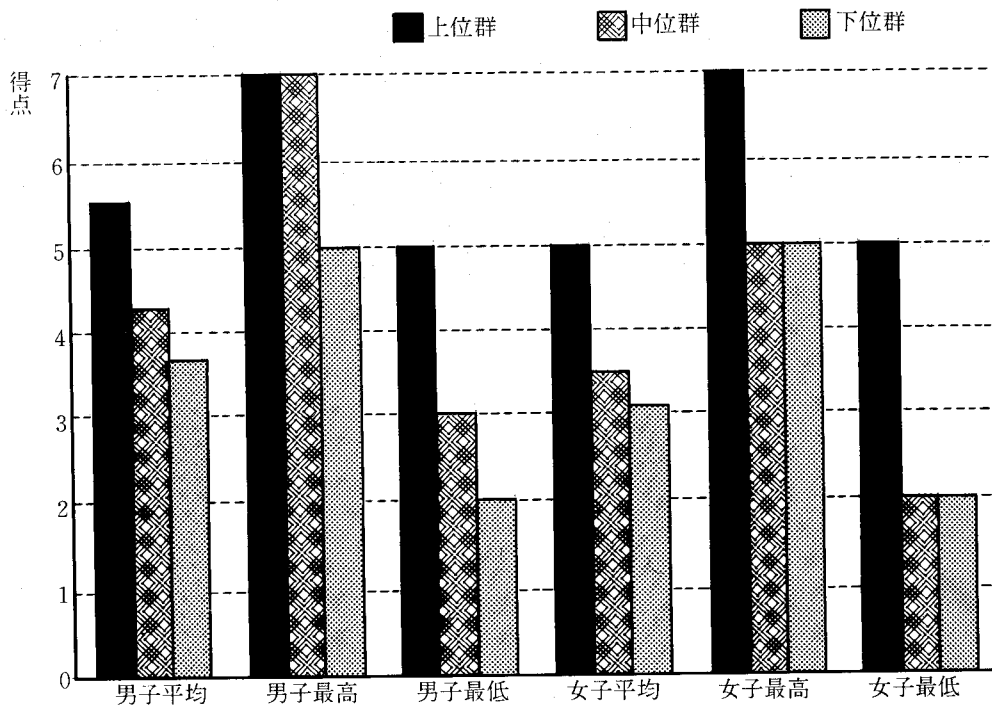
また、長身者は腕も長く、スタンスも広く9m四方の個々の受け持つレシーブエリアが拡大され有利となる。しかし、高校の新人選手クラスの長身者は、足腰が弱く、重心も高く、全体的な体力の脆さが目につき、加えて精神面でも弱く“ウドの太木”に近いことばが聞かれることも多い。

以上のような事柄からをふまえながら、前述の各地域の現状や図一A・B・C等を総合的に検討すると、今回は男子が盛岡地区、女子が気仙地区の高校が岩手県の上位を獲得したが、中学でも男子、女子の同地区が県内のトップを占めている。

高校の競技成績の上位になる一番の近道は、いかに中学の有望選手（全国大会出場経験者等）を多く集めたかによって勝敗が決定されるといわれている。これは他県でも同様のことである。

つまり、中学の有望選手を注目されるような魅力と信頼のある指導者のもとで長身者を揃えたチームが有利となり上位に進出することが可能になり易いと言えよう。

競技力群別身長比較で記述しているとおり、特に中学時の競技力が競技成績を左右しており、身長が高ければ成績が必ずしも良いとはいえない。しかし、高身長選手を有しているチームは競技力向上に努力し、指導者の力量によっては上位を得る期待は大きいが本県のチームは残念ながら男女とも全国の壁は厚く、高身長チームに阻まれているのが昨今の状況である。



図一C 男女の競技力群別身長比較

この報告でも確認できるが、チーム身長の得点評価は、男子の最も高いのが6得点(178～180 cm)であり、高順位6人の平均得点が7得点(181～183 cm)、女子の最も高いのが、7得点(171～173 cm)であった。

また、岩手全地区の平均した身長得点評価は男子が約4得点(172～174 cm)、女子が約3得点(159～161 cm)であった。このようなことから全国に通用するような高身長チーム(大型チーム)になるには、かなり隔たりが感じられ、身長差をレシーブ力やジャンプ力でカバーしなければ、全国の壁は打破できないであろう。

今回の調査対象の全選手をみると、男子で190 cm代の選手を見付けるのが難しく、185 cm以上でも数人であった。女子でも180 cm代は皆無であり、175 cm以上でもほとんど見当たらないのが現状である。

しかし、東北各県では190 cm代またはそれに近い高身長選手が10人前後確認され、女子においても180 cm代は数人、さらにそれに近い選手は数十人と本県とは比較にならないほど各高校チームで活躍している。

また、他県での選手の発掘は、年少の頃から常にそれぞれの指導者が高身長の選手等に指導の主眼をおきバレーボールを楽しませ、小学生から中学校・高校・大学さらに一般、実業団と一貫したラインを組んだ指導体制が確保されていて、将来の方向づけを定めて安

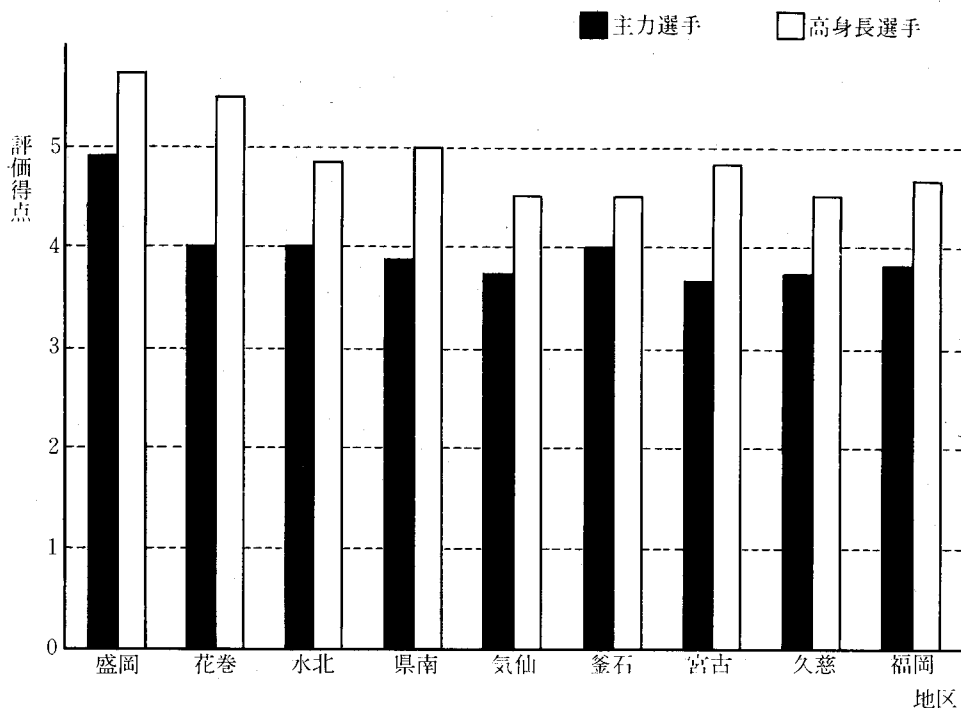
心して選手が競技力向上に集中できる状態を作りだしている。

本県はこのような一貫したラインがまだ確立されておらず、特に、公立学校の指導者は転勤（5～8年）制度により、指導者が変わると、上位チームが一変して普通のチームに下落する例はバレーボールはもちろん他の種目でも例外ではない。

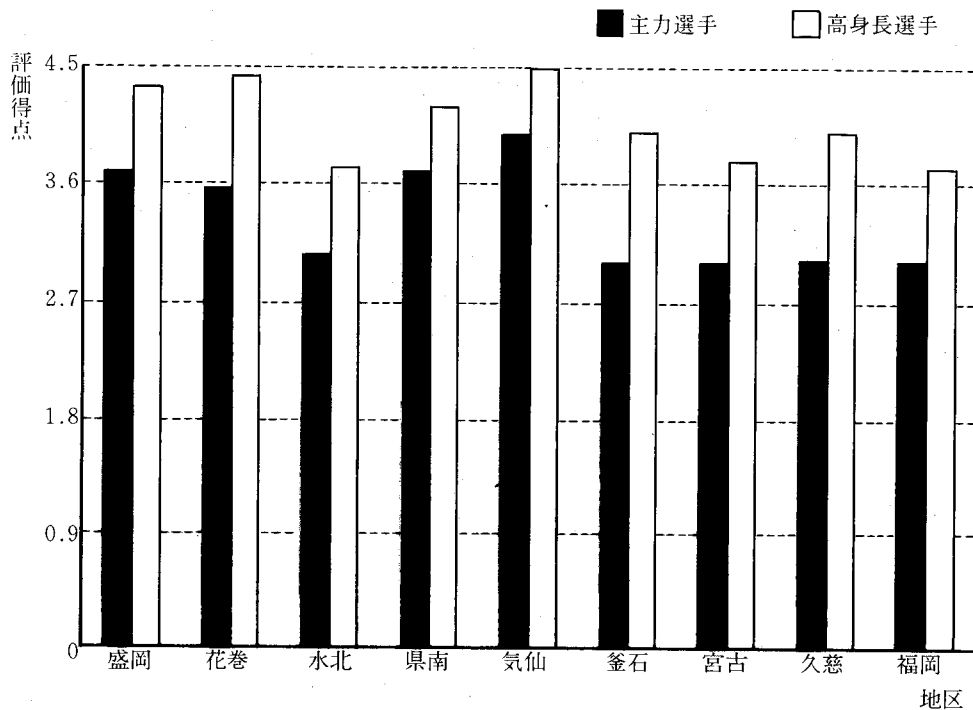
公立学校の指導者に憧れて、またはスカウトされて入学しても、その選手が卒業する前にその指導者が転勤すると、後任の指導者にすぐに馴染めずに競技力が伸びないでしまう例も数多くみられる。

その点、指導者のみに限定した現状は、私立学校であれば転勤という問題は無く、安心して競技力向上に集中できる体制にあることも事実である。

全国の高校界の上位のほとんど男女とも私立学校が名を連ねているのが実状である。本県の私立学校に今後の努力を期待するところが大きい。



図一D 地区別男子の主力選手と高身長者比較



図一E 地区別女子の主力選手と高身長者比較

ま と め

今回の調査を身長と競技力から要約すると次のような結果である。

身長の地域差は、男子は盛岡地区が高水準に位置し、次いで盛岡以南の内陸地区が高水準にあり、概して沿岸地区と県北地区が低い。女子は気仙地区と盛岡地区以南の地区が比較的高いが、その他は低い位置にある。

競技力は、男子が盛岡地区が他地区に比べて一歩抜きんでており、その他の地区は横一線に並んでいる。女子は気仙地区が盛岡以南の内陸部の地区を一歩リードしているが、その他の沿岸地区及び県北地区の停滞が大きい。

また、身長と競技力の関係からみた場合は、新人大会では中学時の経験が戦力を左右し、これからの高校総合体育大会および県民体育大会までの練習量と内容で大きく変貌するものと推察される。

本県では、高身長選手が少ないので運動能力の高いバランスのとれた長身選手を発掘することが急務であり、指導者は選手の育成に際し、効果的な指導と目先の勝負を意識し過ぎないで年齢に応じた選手養成が必要と思われる。そのことが将来期待出来る息の長い選

手を育成する「秘訣」でもある。

今回は、高校チームの地域差の実態報告の第一報としたが小学生、中学校、さらに東北地区、及び全国の長身者の発掘と競技力の関係を地域差別に検討してみることが必要であり、今後の調査としたい。

この資料が高校チーム及び本県バレーボール関係者に参考になれば幸いと思う。

参 考 文 献

- 1) 朝日奈一男, 他 スポーツの科学的指導1 バレーボール 不味堂 1969
- 2) 小笠原義文, 赤石忠男 高校男子バレーボール選手の体力と技術の一考察 アルテスリベラレス31号 1982
- 3) 赤石忠男, 小笠原義文 バレーボール選手の体力と技術の比較研究 一主として体型・機能との関係において一 盛岡短期大学研究報告 第33号 1983
- 4) 豊田 博 種目別現代トレーニング法 大修館 1968
- 5) 豊田 博, 島津大宣 バレーボール教室 大修館 1969
- 6) 豊田 博 最も新しいバレーボール 日本文化出版 1969
- 7) 松平康隆, 他 バレーボールコーチング 大修館 1974
- 8) 吉原一男, 他 バレーボールの指導教本 大修館 1977
- 9) 豊田直平, 他 写真と図解によるバレーボール6人制 大修館 1978
- 10) 日本バレーボール協会編 第一回バレーボールシンポジウム発表抄録 日本バレーボール協会 1981
- 11) 松平康隆, 他 図説バレーボール辞典 講談社 1967
- 12) 斉藤 勝 これが新しい体力づくりだ 竹内書店 1972
- 13) 日本バレーボール協会指導普及委員会編 実戦バレーボール(上), (下) 1978
- 14) 土谷秀雄, 他 競技種目別体力トレーニングに関する研究 日本体育協会スポーツ科学研究報告集 Vol 1 1 1977